

策定プロセス訪問調査事例

岐阜県巣南町

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (梟南町)

記載担当者名 ()

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
<p>【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、地理的条件、社会資源等 ・市町村の組織体制等 ・住民組織の成熟度等 ・県の取り組みと保健所の特徴 ・その他 	<p>人口：11,301人 (H9)、出生率：11.4%(H7)、老年人口割合：12.5(H7)</p> <p>医療状況：総合病院（無し） 大垣市へ車で15～20分 産科（無し） 大垣市、岐阜市内の各病院へ車で15～20分 小児科（有り）、NICU（無し） 大垣市へ車で15～20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市のベッドタウンとして人口は増加傾向。年少人口は県内でも高い。 ・近年、アパート等集合住宅の増加に伴い、母子の孤立化の問題が生じ始めたが、育児サークルは一つしかなく、育成の必要がある。 ・梟南町第三次総合計画や南部まちづくり計画の中で公園整備などを含む活力と潤いのあるまちづくりを目指している。 ・住民課衛生係：住民課長補佐兼衛生係長、事務職1人、保健婦3人 ・H2年に課長補佐が衛生係に赴任したときから、計画や重点事項を持つこと、これをPRする事を行ってきていた。（社教での経験からこの重要性を知っていた。） ＊事業計画も何もない状態からこれを作成するとともに、健康づくり推進協議会を定例化（年1回）し、ここでこれを提示する等を行っていた。 ＊衛生係の印象は、役場の中では存在感が薄く、昔ながらの役所的と言うもの。これを変え、ここから情報を発信できるようにしたかった。（このためには企画課や財政など他機関との連携が必要。） ＊保健婦の印象：仕事は良くやっているが、存在感を周りに示すのが苦手 ・課長補佐が「地域づくり型保健活動」の研修を東京で受け、この方法を取り入れたいと思っていた。 ＊課題からでなく理想から始めるという発想がおもしろいと思った。 ＊本を買って帰り、3人の保健婦に読むように1冊渡した。（保健婦にも この方法の良さを分かってほしかった） 		<p>所管保健所：大野保健所 ・管内人口：166,872人 (H6) ・市町村数：15町村 (9町6村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所保健婦と市町村保健婦との定例の研修会の開催（管内保健婦研修会：年12回、半日～1日 ・乳幼児健診や成人病検診等への支援 ・市町村から保健所へ相談されることが多い保健所である ＊大きな変化があるときは保健所が市町村を支援する動きを以前からしていた。
<p>【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別調整、会議、研修、勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課長補佐が庁内課長会議（毎月曜日）で母子保健計画策定の目的（母子保健計画の委譲を含め）、プロジェクトチーム結成の意義等について説明し、関係課からのチームへの参画への協力依頼をした。 ・梟南町母子保健計画策定プロジェクトチームを組織し、助役、関係課の課長は助言者として参画する（プロジェクトチーム会議7回開催。内1回は助言者も出席） ＊メンバー：関係課へ策定員を指名。（社教経験者を指名） 発想の転換を図る必要があるため、社教経験者の方がこれがしやすいと判断した。 ・住民課衛生係：課長補佐、保健婦3人 福祉係：保育所担当者 ・教育委員会：青少年担当者 ・総合計画担当課：企画開発課長補佐 ・総務課：財政担当者 計8人 ・目的設定型で進めていく旨、チーム内で説明、合意を得た。 		<ul style="list-style-type: none"> ・所長、保健指導課長（保健婦）と母子担当保健婦で保健所の方針について話し合う。 ＊ただ計画を作るだけでなく”まちづくり”視点における計画づくりをしたい。 ＊課長が地域づくり型保健活動について知っていた。 ・保健指導課長、担当保健婦が中心に進めた。 ・H7年12月に策定についての説明会実施 管内保健婦研修会 町村保健衛生担当課長会議 群医師会（所長と課長） ・H8年1月”まちづくり”研修会開催（第一回） 講演：「母子保健計画における子育て支援のまちづくりについて 講師：岩永俊博先生 対象：各町村保健福祉担当 課長、係長、担当者 教育関係者 福祉事務所担当者
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・人的体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内課長会議で理解を得たため、業務時間内にプロジェクトチーム会議など、必要時間を確保することができた。 ・会議開催前に住民課長名で各課へ開催の文書を出した。 		

<p>・時間の確保 ・その他</p> <p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握 ①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化 ・キーマン、範囲、手法、検討体制 (【Ⅱ】と同様)</p> <p>②具体の手法 ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査</p>	<p>・それぞれの担当者が今まで聞いてきたたくさんの住民の声や意見・要望を整理し、計画に反映させた</p> <p>・健康づくり推進協議会での組織代表者からの意見を住民ニーズとして把握した。</p> <p>・人口動態は戸籍係、企画開発課の統計担当者から協力を得た。</p> <p>・母子保健統計資料は保健所提示のものを利用</p> <p>*計画策定段階では、統計分析はほとんど参考にしなかった。(ある程度事前に集めていたが、課長補佐よりこれをやめるよう指示有り)</p>		<p>・H8年4月、5月母子保健担当者会議開催 (市町村からの要望と移譲 へ向けての準備として開催) ・他県の住民参加型の計画書を紹介(4カ所)。 *静岡県竜洋町 *富山県魚津市等</p> <p>・各市町村の保健統計情報の提供</p> <p>◎保健所母子保健計画策定のため、市町村にアンケート実施。</p>
<p>【Ⅳ】計画(施策)化 ①具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>②内容 ・具体の目標、数値目標、評価指標</p>	<p>・課長補佐が中心となりプロジェクトチームで計画素案づくり(7回開催) 第一段階：思っていること、やっていること今後しなければならないことなどの具体化 第二段階：それぞれの分野での重点を考える 第三段階：目標(夢)の共有。理解。 進行方法 *趣旨をわかりやすく伝える *問題を共有する *一人一役(お客さんを作らない) *次回の計画を伝える *次回までの宿題を与える等 <問題点> ・発想の転換までに時間がかかった。夢を語るころから始めたが、固定概念(所属の立場等)で、夢が語れなかった。</p> <p>・中間報告会：助言者の理解を得るとともに意見をもらった。 ・プロジェクトチームで計画原案を作成(具体策ごとに目標年度を設定) *それぞれの担当で文章化(計画への責任を持たせる為) ・健康づくり推進協議会で協議、承認 ・議会の承認</p>	<p>・今回の策定では住民の意見を直接聞くことはなかったが、今後見直しの中で、聞いていきたい。 *今回の策定が全てではない *ただ何も無い段階で意見を聞くのではなく、自分たちなりのものを作ってから聞こうと思った。 *代表という形を取るとその人のみ意見になることがある。</p>	<p>・課長が町村開催研修に講師として参加(母子保健計画の進め方について)：8町村 *住民グループ、母子保健推進員、保健推進員 役場内職員 ・所長や課長が町村母子保健計画策定会議に委員として参加(6町村) ・所長 ・町村訪問ヒアリングにて町村計画策定状況、問題点の把握。 ・母子保健関係者研修会未熟児発生原因など専門的問題分野の情報提供 ・"まちづくり"研修会開催(第2回) 講演：「子供が健やかに育つまちづくり～自主活動グループの育成から～」 講師：くらしすけあいの会 対象者：各市町村策定委員及び関係者</p>
<p>【Ⅴ】計画の具体化 ・9年度予算への反映</p> <p>・計画の進行管理 組織体制</p> <p>・住民、関係機関への周知等</p>	<p>・パンフレット作成、相談事業などの開設の予算化 ・関係機関も含め、計画に沿って確実に進めてきている。</p> <p>・進行管理：健康づくり推進委員会(年1回)で報告 *今後の課題：作り放しにしない。実現する見直しをする(これで終わりではない) 計画書をいつも手元に置く *周知：民生委員会や町内医師会への説明 住民へは事業内容小冊子を出発時に配布</p>		<p>*提出の際、多くの町村の課長が夢を生き生きと楽しそうに語っていた。</p>
<p>【Ⅵ】全体を通じた事例のまとめ(キーワードも記入)</p>	<p><事例の特徴> ・課長補佐が地域づくり型保健活動の研修を基に、庁内課長会議で各関係機関の主体的協力体制を作っている。 ・業務時間内の対応で計画策定ができています。 ・プロジェクトチームの設置とそのメンバー選定方法。 ・チームメンバーが主体的に参加し計画策定したことで、具体的な計画となり策定後の進行も順調。</p>		

- ・保健所が地域づくり型を念頭に置いた研修（内容、対象者）や会議を開催している。
- <感想>
- ・内心保健所が県としての見本を提示してくれるかと思っただ、あえて何もしないことで町村を自分たちでやる気にさせてくれた。（モデルがないのが逆に良かった）
 - ・計画はみんなで協力しあって作るものという認識ができた。
 - ・チーム会議の中でそれぞれの担当でできること、やらなければならないことが理解し合えた。
 - ・担当のみで一つの事業を行うのではなく、協力して一つの事業を実施する事への抵抗感、遠慮が少なくなった。
 - ・福祉との連携がうまくとれるようになったため、障害児の把握、対応（保育所入所等）がスムーズにできるようになった。
 - ・思いの詰まった手作り計画であることが、H9年度の計画実行度に反映されている。
 - ・最初課長補佐から「統計は捨てる」と言われた時はとても不安だったが、話し合いが進む中でみんなが一つの目標に進み出していく過程が楽しかった。
- <要望>
- ・補助事業の充実
 - ・進め方の教科書になるものがほしかった。（岩永先生の本は内容は分かっても、発想の転換までが大変）
 - ・マンパワー不足への支援。（県からの派遣等）
 - ・県立の病院や療育施設に保健婦を配置してほしい。（地域との連携）
- <保健所へ>
- ・福祉事務所と連携してほしい。